

徳川みらい学会第4回講演会



「徳川時代の茶の湯〜遠州の綺麗なさび」

遠州茶道宗家13世家元不傳庵 小堀宗実氏

徳川みらい学会の第4回講演会を9月13日(土)、静岡市民文化会館で開催しました。講演会の講師は

遠州茶道宗家13世家元の不傳庵小堀宗実氏。茶の湯の世界に、現在に通じる美意識を取り入れ「綺麗なさび」を創り上げた小堀遠州について語っていただきました。

要旨は次のとおりです。

茶の湯の宗匠

徳川時代に家康公・秀忠公・家光公の3代の將軍に仕え將軍家茶道指南役となった小堀遠州ですが、茶の湯の世界では遠州に至るまでに4人の宗匠がいました。4畳半の小さな庵の中で禪の考え方を取り入れお茶を行った「村田珠光」や、和歌の掛け軸を床の間に用いるなど和の精神を入れた「武野紹鷗」、シンプルで無駄を省いた「わび」の精神の「千利休」、そしてその「わび」に獨創性を追求した「古田織部」といった、それぞれ個性を持った人物です。

駿府城の作事奉行

慶長13年、本名小堀正一が30歳の時に、家康公居城の為の駿府城の作事奉行を仰せつかりました。作事の功績から従五位下遠江守という地位を家康公から与えられたことで、正一が「遠州」と呼ばれるようになったのです。その後も名古屋城・天守や大阪城・天守閣、二条城・行幸御殿等、宮中や幕府関係の作事奉行を務めました。戦が終わる平和に向かつていく時代の城郭に關しては、小堀遠州の作事が多いと思います。

和合の橋渡し

遠州は將軍家茶道指南役として、茶の湯を通じて徳川家と天皇家の関係性を高めるといった和合の橋渡しをしています。寛永3年、48歳の時には、後水尾天皇の弟にあたる近衛信尋を伏見城に招待し、尾張の徳川義直を席主とした

茶会を催しました。義直と信尋の接近を図り、公家と武士の間の幹旋に尽力しています。

遠州の綺麗なさび

「織理屈綺麗なキツパは遠江お姫宗和にムサシ宗旦」これは江戸時代の狂歌で、「古田織部の茶の湯は理屈っぽく、遠州の好みは切れ味のよい刃物のようにきつぱりしている。お姫様風の華奢好みは金森宗和で、わび茶に徹しているのは千宗旦」というような意味あいです。

綺麗なさびというの洗練され、垢抜けた美しさを表す当時の褒め言葉であったようです。遠州の時代は、戦乱の世から平和な時代への過渡期であり、生活も豊かになり、様々な事物が整備されていきます。大きな変化を迎えたこの時代の美意識を反映し、遠州は新たな茶の湯の形を創造していきました。

綺麗なさびとは古びて趣のある様子、また素朴でつましやかな姿で



あり、お茶の世界では主観的に感じるものとしていきます。そして遠州の綺麗なさびというのはこの綺麗なさびというのに対して、美しさ、明るさ、豊かさといった艶を与えたものです。誰からも美しいといわれる客観性の美、調和の美を創り上げたことにあります。

客観性があるということは、遠州がすべて決めるのではなく、將軍や天皇、その他同席している人たちが加わって、最後に何かが完成するということのような考え方を持っていたのだと思います。



・開演前、会場では遠州流茶道静岡支部による呈茶コーナーを設置

個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。  
 〈お問い合わせ〉 徳川みらい学会事務局 〈TEL〉 284-9660 〈HP〉 [徳川みらい学会](#) [検索](#)